

薔薇を

愛でる。

Rose Bible
Part 1

薔薇の魅力を知る

薔薇を手にした人から、
人生が華やぐ、
美しさが輝きだす

「仕事で失敗して気分が落ち込んだ日、帰りがけに薔薇の花を一輪買っただけで、明るい気分がよみがえったの」「結婚するかもしれないけど当分先?と思っていたカレが、突如特大の薔薇の花束を携えてプロポーズ。思わず首を縦に振っちゃった(笑)」……身近にも数えればキリがないほどある。薔薇の魔法。にかかった女性たちのエピソード。幾重にも重なり合う花びらのゴージャス感、ピロロドのような質感のもつ気品、見つめるだけで目が潤んでくるような美しい色合い。そして、かぐわしさ。薔薇が、私たちの人生にメイクドラマをもたらしてくれる。地球上最も美しい花。である。

私たちの体に流れる
薔薇好きのDNA

現在、フラワーショップで売られている切り花の薔薇はモダンローズといわれる品種。もともとヨーロッパに自生していた品種に改良を重ねた薔薇だ。観賞用に開発されているため、香り立ちはオールドローズに比べると控えめ。薔薇の品種改良の歴史は古く、さかのぼることナポレオンの時代。妃であったジョセフィーヌが大の薔薇好きで、世界中の薔薇を集めまくり、品種改良を始めたという。

薔薇を極めて 「美女オーラ」のある女

アンケートをとると、日本人の89%が好きと答える薔薇の香り。薔薇には人生を豊かにし、希望をもたせ、そして「美女のオーラ」をまとうせてくれる秘密があるらしい。薔薇と薔薇の香りの魅力に迫った。

撮影/John Chan(物) 大崎 聡(ブルガリア取材) スタイリスト/藤井良美 MAP/地図屋もりそん 構成・文/小田由比子(MAQUIA)



PHOTO(D&G,PRADA)/
E.H.P. Paris



今、世界的に注目されている薔薇

この秋冬、フェミニンスタイルのシンボルとして、世界の人気メゾンがこぞって薔薇モチーフの服や小物を発表。1年前から、ブームの兆しにいち早く着目していた「マキア」は、何度も薔薇関連のビューティ情報の特集



PHOTO/Peter Stinger

ファッション界でも 熱い視線が 注がれている薔薇

この秋冬、ファッション界ではフェミニンスタイルが大流行。ボディにフィットするレディライクなスタイル。黒やレースをベースにしたネオ・ゴシック。千鳥格子やツイードを駆使したブリテイッシュ・トラッドと、フェミニンの方向性もさまざまだけれど、そのいずれの世界にもマッチするのが薔薇モチーフ。人気メゾンのデザイナーたちも申し合わせたかのごとく、薔薇をモチーフとして登場させた。そう、薔薇は流行の着こなしに欠かせないアイコン。何気ないコーディネートでも、薔薇モチーフのアイテムが一点加わるだけで、今っぽく見えるから不思議だ。

薔薇を

知る



日本人が昔から愛し続ける花はバラ科

「花見」をこよなく愛する日本人。その代表、桜と梅は、実はバラ科の植物。女の子の節句でおなじみの桃もバラ科



しかし、歴史をひも解いてみると、日本人の薔薇好きもかなりのもの。「万葉集」にはノイバラと思われる薔薇の野生種が歌に詠まれているし、江戸時代にはすでに観賞用の薔薇栽培がスタートしていた。私たちには薔薇好きのDNAが脈々と受け継がれているのだ。

美肌と健康も 手助けする 薔薇のパワー



クレオパトラの美を支えた薔薇

エリザベス・テラー主演の「クレオパトラ」でも入浴シーンをはじめ、あちらこちらに薔薇が登場する 写真協力/AFLO FOTO

「このところの薔薇ブームは「愛でる」「着る」にとどまらず、アロマテラピーやスキンケアの分野でも大人気。ローズオイルがもたらす極上のリラクゼーション感、アンチエイジングへの期待感が話題になり、急速ローズオイルを使用したメニューを開発したエステティックサロンもあつたほど。ローズウォーターや、ローズのサプリメントなども話題となった。

薔薇のもつ美容効果にいち早く気づき、取り入れていたのは古代エジプト人。ご存じ。元祖・美容マニア。クレオパトラも自分磨きのために薔薇の花びらやローズオイルをふんだんに使用。お風呂に入れてくつろいだり、薬として使用したり、ケーキなどの食品に混ぜたり。そのほか、調度品を清めるのにも利用していた。もちろん、いちばんの目的は薔薇の妖艶な魅力を味方につけ、「美女オーラ」を高めるためだったに違いない。

ブルガリアンローズは、“ロサ・ダマスセナ種”という種類。トルコなどでもダマスセナ種は栽培しているが、香りのふくよかさではブルガリアンローズにかなわない

天然の薔薇の香りを
使うのは、今どき
あり得ないほどの贅沢

女性用の香水には、必ずといっていいほど薔薇の香りが入っていることを存じだろうか。そう、香水は薔薇の香りなしでは作れない。しかしながら、現在フレグランスに使われているローズは、ほとんどが人工的に合成されたもの。天然のローズオイルはあまりにも貴重で、高価だからだ。特に、ローズオイルの中でも品質がよく香り高いことで知られるブルガリアンローズのオイルが、フレグランスで使われることは珍しい。ましてや、これをふんだんに使うことは、女性を輝かせたいという確固たるポリシーがなければ今どきあり得ないことなのだ。



薔薇を

かく

ヴィンテージブルガリアン
ローズだけがもつ
満ち足りた奥深い香り

宝石ほどに高価なヴィンテージブルガリアンローズのオイル。これを、大胆にも主役に立て、贅沢に香らせた香水が資生堂から発売される。その名も「ローズルーージュ」。調香を担当したナタリー・ロルソン氏によると

「こんなに質のいいローズオイルを柱にレシビを考えられるなんて、調香師冥利に尽きますね。通常、薔薇の香りを加えたくてもブルガリアンローズはおろか、天然のローズオイルを使うことさえ許されないことがほとんど。実際、人工ローズの香りしか扱ったことのない調香師も多いんです」とのこと。

「ヴィンテージブルガリアンローズの香りをかいたとき、華やかさだけでなく幸福感、柔らかさ、すがすがしさなど多面的な魅力を感じましたね。この特別な品質を生かすべく、今回の調香にはこだわりにこだわり抜いたレシビを完成させました」(ロルソン氏)

ローズルーージュの調香は世界的に有名な調香師が担当



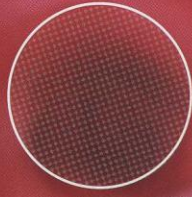
↑ヴィンテージブルガリアンローズの香りだけがもつ個性を生かしながら調香を進めるロルソン氏。試作した数は、およそ1000通り。その中の傑作レシビが「ローズルーージュ」となった。←薔薇の花を見かけたら、必ず香りをかいてみるロルソン氏。「いろいろ比較してみても、ヴィンテージブルガリアンローズの香りは素晴らしい！」

ナタリー・ロルソン氏
名立たるブランドのヒットフレグランスを世に送り出した著名な調香師。天然香料を扱えない調香師も多い中、そのよさを引き出し、名香に仕立てられる数少ない人材

薔薇を極めれば、ここに行き着く。「美女オーラ」を放つ香り

Try it!

マルの中をこすると香りが楽しめます
マルの中を指でこすると「ローズルージュ」の
香りを試すことができます



**“特別な薔薇”を
自分の魅力にする贅沢**

鑑定書付きのヴィンテージブルガリアンローズオイルをたっぷり使用。トップノートからローズがふわっと広がり、ミドル、ラストへと優雅な香りが持続。ピオニーやアイリス、ベルベッティムスクといった貴重な素材を組み合わせた。ローズルージュ パルファム 32ml ¥21000 / 資生堂 (11/21数量限定発売)



**軽やかに香らせる
ならこれ**

通勤などの普段使いに。着替えの前につけると体になじみ、オフィスや通勤電車で香りすぎない。ローズルージュ オードパルファム 50ml ¥6300 / 資生堂 (11/21数量限定発売)

ギフトとしても喜ばれそうな華麗なボックス

黒地にローズルージュカラーの薔薇模様が施されたパルファムのボックスは、いつまでも飾っておきたいほどの美しさ。パルファムにはお揃いのアトマイザーが付いてくる

薔薇の聖地

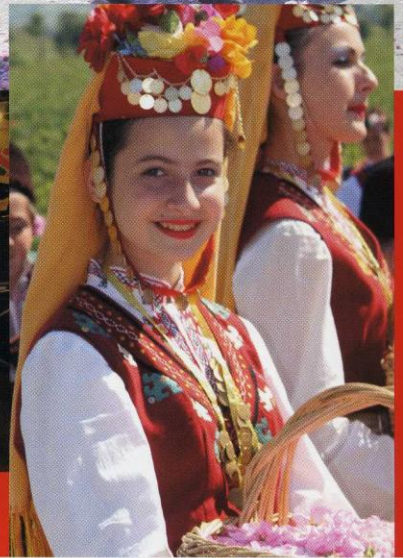
ブルガリア紀行



↑ブルガリアの薔薇の産地の中でも、最も生産高の高い地方カザンラク。毎年6月の収穫時期に恒例の“薔薇祭り”が開催され、にぎわいを見せる



↑カザンラクの“薔薇祭り”の前夜祭。街の特設ステージでは、野外オペラなどさまざまなショーが催され、“バラの女王”が選ばれる。左は今年の“バラの女王”ブラメナ・ニコロヴァさん。昨年の女王ボヤナ・チャカロヴァさんも駆けつけた



ブルガリアアンローズといえば、良質のローズオイルやローズウォーターの原料として知る人ぞ知る薔薇。フラワーシヨップなどで手に入る観賞用の薔薇と違い、ローズオイルやローズウォーターを抽出するために栽培される“ロサ・ダマセナ”と呼ばれる種類の薔薇。普段私たちが身近に見かけることはほとんどない。その香り立ちの華やかさ、優雅さ、柔らかさが人気の“ロサ・ダマセナ”だが、生産できる地域は世界でもごくごく限られており、その中で特に質の高いローズを生産するのがブルガリア。ブルガリアといえばヨーグルトなどの乳製品を思い浮かべる人も多いはずだが、実は薔薇栽培、ローズオイルの生産は国を挙げての事業。ブルガリア国内を移動していると、世界でも珍しい広大な“薔薇畑”がそこかしこで目に飛び込んでくる。中でも、ブルガリアの国のほぼ中央に位置するカザンラクは、“薔薇の町”として名高い地方都市。毎年、薔薇の収穫時期の6月になると盛大な“薔薇祭り”が開催され、周辺地域のみならず、世界中から熱心な薔薇マニアたちが集まり、にぎわいを見せる。カザンラクは、薔薇畑の向こうに美しい山並みを徒え、ヤギ



ブルガリア中を幸せな香りが包み込む、薔薇の季節

Rose Bible Part 2

薔薇の香りを訪ねる

